

白糠町で農家になる

本町では、昨年から農業に従事する地域おこし協力隊員【以下、協力隊員】を募集しています。

今月号では、本年から白糠町の協力隊員として着任した齊藤貴光さんと西村純一さんを紹介します。

農業は人生のすべて

齊藤貴光

齊藤さんは、東京生まれの東京育ち。一見、農業とは縁がないように思えますが、母親の実家が埼玉県ふじみ野市で100ヘクタール規模を経営する大規模農家。幼少期から農業に触れてきました。

その影響もあり、北海道で大規模農業を目指すようになった齊藤さんは、東京農業大学卒業後、スーパーの八百屋、そ市場での野菜販売や農業法人での野菜作りなど、野菜に関わる仕事を続けてきました。

そして「北海道で農家になる」という長年の夢をかなえるため、仕事を辞めて本町の協力隊員となることを決意。現在は株式会社大前産業で収穫などの手伝いをしながら、自分の農園を持つための準備を進めています。

——地域おこし協力隊として白糠に来るまでの経過を教えてください。

長野県や宮崎県、静岡県など、最先端の農産地も考えたのですが、昔から北海道で大規模農業をやりたいという気持ちがあり、最初は富良野市に就農できないか問い合わせをしました。富良野市は要件が厳しくてだめだったので、北海道農業公社から白糠町を紹介してもらいました。それで白糠町へ来て、いろいろなところを見て回り、町に良い印象を持ちました。



地域おこし協力隊 齊藤 貴光
 「白糠町で農家として
 生きていきたい」